

富山大学人文学部令和5年度卒業論文

若者のテレビ視聴の現状とネットメディア

富山大学人文学部人文学科
社会文化コース社会学分野
学籍番号 12010044
氏名 貝瀬 達哉

目次

第1章 問題関心	2
第2章 先行研究	
第1節 若者のテレビコンテンツからの乖離	3
第2節 インターネットによる動画の視聴	4
第3節 テレビのながら視聴	5
第3章 調査	
第1節 調査概要	6
第2節 インタビュー어의紹介	6
第3節 主な質問項目	7
第4章 分析	
第1節 テレビ番組視聴中のSNS利用	9
第2節 SNSからのテレビ番組の視聴	12
第3節 テレビ番組のリアルタイム視聴	16
第4節 TVerを利用したテレビ番組の視聴	18
第5節 テレビ番組を視聴しない理由	22
第5章 考察	
第1節 SNSとテレビ番組の関係性	26
第2節 ネットを活用した新しい番組視聴	27
第3節 時間の共有とSNS	28
参考文献	29

第1章 問題関心

近年テレビを視聴する若者の数が減少している。総務省の令和3年度版情報通信白書によると2016年～2020年における10代、20代のテレビの平均利用時間は全年代の平均利用時間と比べると少なく、2020年では平日1日の全年代の平均利用時間が163分であるのに対し、10代の平均が73分、20代の平均が88分と明らかに利用時間が少なく、いわゆる若者の「テレビ離れ」が進行しているのではないかと考えられる。

若者がテレビという媒体から離れつつある理由として、SNSやYouTubeといった他のネットメディアによる影響が大きいだろう。実際に情報通信白書のデータを見ても、10代、20代のネットの平均利用時間は全年代の平均と比べても高く、ネットを利用する時間が増えたことでテレビを見る時間が減ったと考えることが出来るだろう。

しかし、ネットメディアはテレビ離れを進行させているとして断定してもいいのだろうか。SNSやYouTubeはテレビ離れを促進させるだけのものではなく、X (Twitter) のトレンドのようなテレビ番組に良い影響を与えることも多いのではないだろうか。そこで、実際に若者にテレビ番組の視聴時間や視聴形態、現在のテレビ番組への印象についてネットメディアとの比較を交えてインタビュー調査を行い、若者のテレビ視聴の現状について明らかにしていきたい。

第2章 先行研究

第1節 若者のテレビコンテンツからの乖離

斉藤（2020）は20代に的を絞ってテレビ視聴に関する世論調査を基に分析を行った。分析によると、現在の20代において週に1度もリアルタイムでテレビに接触しない人が約3割存在し、毎日視聴したり長時間視聴したりするヘビーユーザーが減少していることが分かった。その一方でリアルタイムではなくタイムシフト視聴（ハードディスクなどに録画しておいて、あとから再生視聴すること）の視聴推移についての分析によると、タイムシフト視聴においてもリアルタイム視聴同様に減少傾向にあり、このことからリアルタイムの代わりにタイムシフト視聴が増えたわけではなく、20代はテレビコンテンツそのものから離れているのだとした。

また斉藤（2020）によるとリアルタイム視聴率が減少している夜間に20代のスマホを使ったメディア行動が活発になっていることが分かり、このことから若者のテレビ離れの要因としてスマホの利用時間の増加が関係していることが考えられる。

志岐（2018）は20～22歳の大学生女子10名についてテレビの視聴時間やテレビへの意識について半構造化面接を行った。調査によると近年の若者世代は友人や知人とはあまりテレビの話をしないことが指摘されており、その理由としてそれぞれの生活スタイルが分散化したことにより友人たちと視聴番組が一致しなくなることでテレビの話題が友人同士の会話にのぼらなくなることがあげられている。このように友人同士でテレビの話題がなくなると視聴するテレビ番組の幅が広がらないことでテレビコンテンツから離れていってしまうのではないかと考えられる。

これらの一方で斉藤（2020）の考察において、放送後の番組を一定期間視聴することができるインターネットのサービスによる番組の視聴から、インターネットがテレビコンテンツへの接触の機会を広げる役割を果たしている可能性を示唆している。斉藤（2020）では考察の一つとして留めており実際に研究はなされていないが、本調査ではこのインターネットとテレビコンテンツとのプラスの関係性の有無についてより明確にしていきたい。

第2節 インターネットによる動画の視聴

内堀・渡辺（2022）によると、テレビ番組を視聴する機器は全年齢では90%がテレビだと回答したものの、16～29歳では半数以上がスマートフォンでテレビ番組を視聴していると回答した。テレビ以外の機器でテレビ番組を視聴する理由としては「自分の好きな時間帯にテレビを見たいから」、「外出中に見たいから」、「家の中のテレビがないところで見たいから」などが挙げられており、放送時間や場所に縛られず手軽にテレビ番組を視聴する若者が存在することが分かる。

また16～29歳ではYouTubeの利用者が94%、サブスクの動画の利用者が69%とインターネットによる動画の利用率が高く、スマートフォンやタブレットで時間や場所に関係なく視聴できる動画の利用がテレビ離れの要因の一因として挙げられるのではないかと考えられる。従来は娯楽としての要素や「興味のなかったものに関心をもつ」という要素として利用されていたテレビ番組であったが、現在の若年層にとってはYouTubeやネット動画、SNSといったものがそれらの役割を担っていると分析しており、テレビ番組が本来持っていた役割がそれらのインターネットに移っていったことが分かる。

インターネットとテレビの関連性としては、インターネットの普及による新しい視聴形態も見られる。内堀・渡辺（2022）によると「テレビの大きな画面で動画を見たいから」、「動画を見ながら別の用途でスマホを使いたいから」などといった理由で4人に1人がインターネット動画をテレビ画面で視聴しており、このことからインターネット動画を見るためにテレビ画面を利用する人がいることが分かる。これはテレビ番組のながら視聴とも繋がる視聴の在り方ではないかと考えられる。また、16～29歳の年代は他の年代と比べて「放送や配信というメディアの時間軸に自分の行動を合わせるという意識が薄い」と分析しており、TVerやサブスクの動画によって一定期間放送終了後の番組を好きな時間に視聴できることから、リアルタイムで見られる番組であっても録画をしたりそれらのサービスを利用して別の時間に視聴したりする行動が見られたという。これは時間を無駄なく使いたいという意識が働いているのだと考えられる。

このような考え方がある中で現在でもリアルタイムでの視聴にこだわる人はどのような理由があるのかについては言及されておらず、本調査ではリアルタイムでの視聴を行う理由についても詳しく分析していく。

第3節 テレビのながら視聴

平田・伊藤・舟越（2022）によると、テレビ番組視聴中にスマホを利用する行動を「ながら利用」と定義しており、その「ながら利用」について、1日あたりのSNSの平均利用時間について70歳以上の男性を除いてどの年層でも「ながら利用」が「専念利用」を上回り、特に20代女性でながら利用の時間が長いことを指摘している。またSNSがどのような行動と組み合わせて行われているのかについて、テレビのリアルタイム視聴との組み合わせの割合が最も大きく、10代～60代の各年代で女性が男性を上回っていることを指摘しており、このことからテレビ番組を視聴する人々の中にスマホを使用しながらテレビを視聴する「ながら視聴」を行う人々が存在することがわかり、男性よりも女性の方がながら視聴を行っていることが分かる。

ながら視聴について、テレビ番組の視聴とスマートフォンの利用のどちらを中心として行っているのか、どの程度テレビ番組の内容が記憶に残っているのかなどは先行研究では言及されておらず、本調査では、ながら視聴にさらに深掘りをしていきたい。

第3章 調査

第1節 調査概要

10代後半～20代前半の男女数名にテレビ番組やネット動画の視聴時間、テレビ番組の視聴状況について半構造化インタビューを行う。また、本調査においてTVerでテレビ番組を視聴する人についてはテレビ番組を視聴している人として考えることとする。

第2節 インタビュー者の紹介（インタビュー当時）

今回調査した調査対象者は10代～20代の6人である。また、インタビューを行ったAさんからFさんの①テレビ番組の視聴時間、②YouTubeの視聴時間、③テレビへの関心度については以下の通りである。

・Aさん（大学3年生男性）

- ①平日：大学へ出かけるまでの朝30分 休日：多い日は6時間程度ゲームをしながらつけっぱなし（番組自体を視聴しているわけではない）
- ②平日：1時間 休日：3時間以上
- ③テレビ番組はあまり見ない

・Bさん（大学3年生男性）

- ①平日と休日ともに0時間（テレビは置いているが視聴していない）
- ②平日と休日ともに1～2時間
- ③テレビ番組はほとんど見ない

・Cさん（大学4年生男性）

- ①平日と休日ともに1時間
- ②平日と休日ともに1時間
- ③よく見るテレビ番組がある

・Dさん（社会人1年目女性）

- ①平日：4時間 休日：一日中つけっぱなし
- ②平日：30分程度 休日：2～3時間
- ③毎日見る、テレビがない生活は考えられない

・Eさん（大学4年生女性）

- ①平日：1～2時間 休日：2～3時間

②平日と休日ともに1時間

③好きなドラマや推しが出演する番組はほぼ欠かさず見る

・ Fさん（社会人2年目女性）

①平日と休日ともに0時間（テレビ番組を視聴しない）

②平日：2時間 休日：6時間

③テレビ番組は全く見ない（興味がない）

第3節 主な質問項目

本調査においてインタビューを行った際の主な質問項目は以下の通りである。

- ・ 一日のテレビ、YouTube、スマホの平均視聴時間（平日、休日ともに）
- ・ テレビ番組を視聴する主な時間帯
- ・ 普段視聴しているテレビ番組のジャンル
- ・ 欠かさず視聴している番組（紅白やM-1のような特番も含めて）、その理由
- ・ テレビ以外の動画（YouTubeやサブスクなど）で普段視聴しているジャンル
- ・ テレビ番組とネット動画で見ているジャンル・モノに違いはあるか
- ・ テレビ画面を地上波以外の用途で使用する頻度
- ・ 録画機能を所持しているか、またその理由
- ・ 自分にとってのデバイスの優先順位
- ・ テレビ番組について友人や家族と話すことがあるか
- ・ YouTubeについて友人や家族と話すことがあるか
- ・ サブスクについて友人や家族と話すことがあるか
- ・ テレビ番組のSNSをフォローしているか
- ・ 自分が視聴した番組についてX（Twitter）で感想を投稿したことはあるか
- ・ 自分が視聴した番組についての投稿を閲覧したことはあるか（閲覧した理由）
- ・ TVerを利用しているか、（利用している場合、その理由）
- ・ Tverを利用している場合、利用頻度
- ・ テレビとTVerはどちらの方が多く利用しているか
- ・ 再放送のドラマを視聴したことがあるか（話題になっていたドラマを視聴するか）
- ・ 自分の好きな芸能人がテレビに出演するとき、その番組を視聴するか

ながら視聴に関する質問

- ・ ながら視聴をしているか
- ・ テレビ番組を視聴している時にスマホを使いたくなるタイミング

- ・ テレビ番組を視聴している際にスマホを使用する理由
- ・ ながら視聴の際に視聴しているテレビ番組のジャンル
- ・ ながら視聴をする番組はリアルタイムの番組なのか、録画なのか
- ・ ながら視聴をしている際に使用しているスマホの用途（スマホで何をしているのか）
- ・ テレビをつけっぱなしにしている理由
- ・ ながら視聴をしている際のテレビとスマホの集中度の割合（どちらをより優先しているのか）

ネットメディアや倍速視聴に関する質問

- ・ YouTube やサブスクの動画について、倍速視聴をしているか
- ・ 録画している番組は倍速視聴しているか
- ・ SNS を利用する場合、SNS の情報からテレビ番組を見始めたことはあるか（テレビ番組の公式 SNS や番組の宣伝の投稿など）
- ・ テレビ番組の YouTube の切り抜きからそのテレビ番組を視聴したことはあるか
- ・ テレビ番組を視聴した後にその番組の YouTube の切り抜きを検索もしくは視聴したことはあるか

テレビ番組をあまり視聴しない人に対する質問

- ・ テレビ番組を視聴しない理由もしくはテレビを消す理由
- ・ テレビを点ける理由
- ・ テレビ番組に不満がある場合、どのような点に不満があるか
- ・ 時間に余裕があればテレビを視聴しようと感じるか
- ・ 現在の環境からテレビがなくなったら困るか
- ・ 実家にいた頃とひとり暮らしをしている現在の視聴時間の違い
- ・ 実家にいた頃に視聴していた番組のジャンル
- ・ YouTube がなくなったらテレビを視聴したいと感じるか

第4章 分析

第1節 テレビ番組視聴中のSNS利用

テレビ番組を視聴する時間が長いDさんに番組の視聴中にスマホを使用する「ながら視聴」をするかどうかについて質問したところ、以下のような発言が得られた。

貝瀬：じゃあまず、ながら視聴はしていますか。

D：あーしてますね。

貝瀬：テレビを見てるときにスマホを使いたくなるのはどんな時ですか。

D：えー…なんか、これ見なくていいやみたいなの、音だけ聞いていけばいいやみたいなのときと、あとは何だろ、衝撃っていうか…分かる？さっき言ったTwitter見ようみたいな。

貝瀬：あー感想とかを知りたいときみたいな？

D：あーそうそうそう。

貝瀬：あ、じゃあその2パターンがあるってことね。

D：その2パターンかな。

Dさんはテレビ番組の視聴中にスマホを使用しながら視聴を行っており、Dさんの場合スマホをメインに利用してテレビ番組を視聴せずに情報のみ耳に入れているパターンと、テレビ番組を視聴しながらスマホでX (Twitter) の感想を閲覧するパターンの2つがあるという。その中で感想をX (Twitter) で閲覧する場合のながら視聴に関しては以下のように発言している。

D：そうね、あとはテレビ見ながらその番組検索してなんか同じ風な感想持ってる人のツイート見ながらっていうのをやってたりするよね。あとドラマだったらさ、考察とか入ったりするじゃん、上手な考察する人とかいるじゃん？それ見ながら何だろ、一緒に見てる感覚というか。

(中略)

貝瀬：じゃあ自分が見た番組についてのツイートを閲覧したことはありますか。

D：あるね、あるある。

貝瀬：それはドラマのツイートとかってこと？(D：うん。) 閲覧した理由とかは？

D：えー何だろ…これみんなどう思ってるのかなーみたいな。

貝瀬：あーじゃあさっきと似たような感じでことね。

D：そうそうそう、そのまんまだよ、さっきのことのまんま。

貝瀬：自分の感想を他の人がどう思ってるのか共有したい。

D：あーそうそう、やっぱそうだよなーみたいな、この演出どうなん？とか…何かお笑い

とかだったらさ、何か自分はおもしろいと思ってるけど世間はそうでもないとかさ、あるじゃん？その人の価値観によってさ、おもしろいおもしろくないが。M-1とかもそうじゃない？

貝瀬：うんうん、だから他の人がどう思ってるのかを気になって閲覧しちゃうってことね。

Dさんは自らX(Twitter)で番組の感想をつぶやくことはないが、自分と同じような感想を持っている人や他の人がその番組に抱いている感想、ドラマの考察などをX(Twitter)で閲覧することで一緒にその番組を視聴しているような感覚でながら視聴を行っている。この場合におけるDさんのながら視聴はSNSとテレビコンテンツが相互的にプラスの働きをしているのではないだろうかと推測できる。また、その際に視聴しているテレビ番組のジャンルについてはドラマ、バラエティ、好きな芸能人が出演する番組といったSNSで感想が流れやすいものが挙げられた。

このDさんで見られたX(Twitter)の利用のような、番組視聴中に感想の共有を行うインターネット利用はEさんでも同様の意見が見られ、以下のように発言している。

貝瀬：じゃあ次に、ながら視聴に関する質問で、ながら視聴っていうのはテレビを見ながらスマホを見てることなんですけど、ちなみにながら視聴はしていますか？

E：いやあんまりしないです。

貝瀬：あんまりしない？あーじゃあ基本的にテレビを見るときはテレビだけって感じ？
(E：うん)それって例えば途中でCMになったりするじゃん？CMの最中も見たりはしない？

E：あCMのときはいじります。

貝瀬：あーCMのときはね？本編はテレビに集中するってことね。(E：うんうん。)じゃあそのCMの時はスマホでは何をやってたりするの？

E：インスタ。

貝瀬：あー基本はインスタ？

E：うん(笑)、インスタです。

貝瀬：あーなるほどね、Twitterとかは？Twitterで例えばその番組がちょうどTwitterで話題になって挙がってるから、それを見てみようとかは？

E：あー、でもそれもたまにあるかも、歌番組とかだとなんかその出演した後とかに(Twitterに)挙がったりするじゃないですか(笑)、だからCMの間にチェックしたりとか。

Eさんは番組の本編が放送されている間はスマホを使用しないが、CM中はスマホの使用を行っており、スマホでは主にInstagramやX(Twitter)と言ったSNS利用を行って

いる。番組放送中の X (Twitter) の使用は D さんと同様に自分が見た番組関連の内容を閲覧しており、SNS とテレビ番組を相互的に利用している点で共通点が見られた。

以上のように第 1 節においてテレビ番組視聴中の SNS 利用について分析を行ったところ、D さんや E さんはテレビ番組視聴中の SNS 利用に関してテレビ番組と全く無関係の用途で SNS を閲覧している訳ではなく視聴中のテレビ番組関連の内容を閲覧していることが分かり、スマホの利用時間の増加がテレビ番組の視聴率減少の一因と言われる一方で SNS がテレビ番組と相互補完的な関係を持っている可能性があることが二人の分析から考えられるだろう。

第2節 SNSからのテレビ番組の視聴

現在のテレビ番組ではX (Twitter) を中心としてInstagram やTikTok などの公式SNS がほとんどの番組で開設されており、特に民放のキー局では公式サイトに各番組で開設している公式SNS の一覧をアップし、そこからそれぞれのSNS へ飛べるような仕組みになっている (日本テレビ、TBS、フジテレビ、テレビ朝日の各公式サイト参照)。このようにSNS を利用したテレビ番組の視聴を促進させる働きが見られ、D さんのインタビューからもSNS に関して以下のような発言が見られる。

貝瀬：テレビ番組のSNS をフォローしていますか。

D：インスタは…してるね、してるしてる。

貝瀬：Twitter とかは？

D：Twitter は…してるね (笑)。

貝瀬：ちなみにどのくらいの数？

D：2…どっちも2。

(中略)

貝瀬：好きな芸能人はいる？

D：好きな芸能人はいる。

貝瀬：じゃあその人がテレビに出たときにその番組を見ますか。

D：あ、見えます。

貝瀬：それを見てる場合なんだけど、好きな芸能人が出てますっていう情報があったときにどのくらいの割合で出てる番組を追っていますか。

D：70%ぐらいかな。

貝瀬：その芸能人が出ますっていうのはどこから仕入れるの？

D：Twitter。

D さんはX (Twitter) やInstagram でテレビ番組の公式SNS をフォローしており、そこから番組に関する情報を取り入れている。また、自分の好きな芸能人が出演するテレビ番組についてもX (Twitter) の情報を元に視聴しており、このことからD さんはSNS によるテレビ番組の宣伝や出演情報で実際にテレビ番組の視聴につながっていることがわかる。D さんは好きな芸能人をSNS でフォローしており、その芸能人がX (Twitter) で発信する情報やInstagram のストーリー・投稿で流れてくる番組の宣伝をよく閲覧するという。従来のテレビ番組視聴は番組表を検索して自ら進んで見ようと思わなければ視聴にたどり着かない、というものが多かったが、SNS の発達により自ら検索しなくても好きな芸能人の出演情報が流れてくるため、普段からテレビ番組をあまり見ていない人にとっても番組情報が得られやすい環境が作られているのではないだろうかと考えられる。

Eさんにも同様に公式SNSをフォローしているかインタビューを行ったところ、以下のような回答が得られた。

貝瀬：テレビ番組のSNSってフォローしていますか？

E：あーめっちゃお気に入りのドラマとかだったらフォローしてる（笑）。とか、推しが出るとるやつとか（笑）。そういうのはフォローしてます。

貝瀬：うん。ちなみにそれってインスタの方？

E：インスタ。

貝瀬：大体何個くらいフォローしているのかって分かる？

E：え、3個くらい（笑）。

EさんはDさんと同様にテレビ番組の公式SNSをフォローしており、お気に入りの番組や推しの出演する番組について、番組の情報や出演者の投稿を閲覧している。またEさんは自分の好きなアイドル（推し）が出演する番組をチェックすることもあり、その番組のツイートを閲覧すると発言している。

貝瀬：自分が見た番組…まあドラマとかでもいいし音楽番組でもいいんだけど、それについてTwitterでツイートしたりとかはしたことない？

E：えーない、かな。

貝瀬：例えばドラマとか音楽番組とかってさ、話題になるとトレンドに挙がったりするじゃん？その時にそのトレンド見たりとかはする？

E：あ、それはする。

貝瀬：じゃあドラマとか音楽番組のトレンドってなんでそれを閲覧しようって思ったりするの？

E：え…なんか開いたときに推しの名前とかが上に挙がったととりあえず見とこうかなーみたいな（笑）。

EさんはDさんと同様に自らX（Twitter）で番組の感想をつぶやくことはないが、トレンドに自分の推しの名前が挙がっていることで興味を示しその番組に関するツイートを見ると発言している。これはX（Twitter）で表示される日本のトレンドやレコメンド機能により表示されるおすすめトレンドで挙がってきた、推しの名前がトレンドトピックになっているテレビ番組のツイートを見かけた際に閲覧するという旨の内容であり、自分が見た番組の感想を共有する前述の場合とは異なり推しの出演した番組をチェックするためという言わば推し活のようなX（Twitter）の使用が見られた。このEさんの場合のように推しの名前をSNSでチェックしたりおすすめで挙がってきたりすることでその関連として推

しが出演している番組にたどり着き、その番組に関するツイートを閲覧したり実際にその番組を視聴したりという推し活の一種として SNS からテレビ番組の視聴につながるというパターンもあるのではないかと推測できる。

今回調査を行った E さんは自分の好きなアイドルの出演番組を視聴していたため視聴ジャンルは音楽番組、ドラマ、バラエティといったものが多かったが、推しが声優の場合であればアニメ、芸人であればお笑い番組など、他のジャンルであっても同様におすすめのトレンドからの番組視聴の流れが存在するだろうと考えられる。

以上のように E さんは推しの番組をチェックすることが多く、推しが出演する番組について以下のような発言が得られた。

貝瀬：好きな芸能人はいますか。

E：グループでもいいですか（笑）…えっとなにわ男子と King&Prince（笑）。

貝瀬：うんうん、ありがとう。そしたらじゃあ、なにわ男子とかキンプリが出てるときに…まあその人たちがテレビに出たとき、その出演してるドラマでもいいしバラエティとかでもいいし、その人たちが出たときにその番組は見てますか？

E：基本。

貝瀬：基本見てる？それって例えばじゃあ 10 割くらいその人たちが出てたとして、その内何割見てる？

E：えー…8 割は見てます。

貝瀬：それってさ、好きな芸能人が出ますみたいな情報ってどこから仕入れるの？

E：あー、えっと、ファンクラブの会員メールで毎週メディア情報が届く（笑）。

前述したように E さんはテレビ番組の公式 SNS をフォローすることにより SNS とテレビ番組とのつながりが見られたが、その他に推しのアイドルのファンクラブの会員メールから届くメディア情報によってテレビ番組を視聴するという意見が得られた。E さんによるとファンクラブに入会しているメールアドレス宛にグループのメンバーが出演する予定の番組の情報が毎週届き、その情報を元に推しが出演する番組を視聴することがあるという。これは先ほど触れた推し活からテレビ番組の視聴につながっていることと関連できる例ではないかと考えられる。なお E さんによるとファンクラブのメディア情報で一方的に出演情報が送られてくるが、それ以外にも推しの Instagram をフォローすることにより彼らが Instagram 内で投稿する番組の出演情報を見てテレビ番組の視聴をすることもあると発言しており、E さんの場合は SNS によるテレビ番組の情報から番組を視聴し、そこから気に入った番組の公式 SNS をフォローするというテレビと SNS の双方向的な利用が見られた。

ここまでの分析で X (Twitter) ではトレンド機能による話題性によってテレビ番組の視聴につながるがあると推測できるが、他の SNS で同様の例が見られるか質問したところ以下の回答が得られた。

D : まあでも TikTok はあるかな。

貝瀬 : TikTok はどんな感じなの、たとえば。

D : TikTok はなんかね、過去のやつを無断転載されているのがおすすめで流れてきて、あ、おもしろそうじゃんって思ってそれが TVer で残ってたりするとフルで見たりはする。

D さんによると TikTok におすすめ動画として流れてくるテレビ番組の切り抜きを視聴することで、興味を持った内容であればそこから実際に番組全体を視聴することがあると発言している。TikTok で流れてくる動画は基本的に短時間の動画であるためテレビ番組全体を視聴することはできず、一部分の切り抜きからその続きを視聴したくなるようになり、結果的にテレビ番組の視聴に繋がっているのではないかと考えられる。このような短時間の動画によるテレビ番組の切り抜きは YouTube のショート動画や Instagram のリール動画でも同様のものが見られ、今回の調査では見られなかったがこれらの動画からテレビ番組の視聴につながっていく流れも存在するのではないかと推測できる。

以上のように第 2 節で SNS からテレビ番組の視聴につながる例を分析した結果、公式 SNS の存在による番組とのつながりが関わっていることが分かった。特に X (Twitter) ではトレンド機能による番組のトレンドが影響をもたらしている例が見られ、TikTok では番組の切り抜き動画がその元となっている番組への興味を引き立てる効果をもっており、SNS の利用がテレビ番組を視聴するきっかけとなる流れが作られていることが分析できた。

第3節 テレビ番組のリアルタイム視聴

第2節で見られたようなSNSが影響をもたらす話題性によってテレビ番組の視聴につながる例も見られ、Dさんのインタビュー内で欠かさず見ている番組とその理由について質問したところ、以下のような発言が見られた。

D：毎週見てるものは…何だろうね、なにわ男子の番組は何だろう、チェックしておきたいから。ほぼ義務感だね。

D：で水曜日のダウンタウンとかも、たまにTwitterでトレンド入りとかするじゃん？何だろう、それを後から知るのが嫌だというか。

貝瀬：あーその、話題に乗っかきたいみたいな？

D：あーそうそうそう、話題に乗っかきたいみたいな。

X (Twitter) ではリアルタイムで放送されている番組の感想ツイートが盛り上がるとトレンド入りすることがあり、Dさんによるとそのようなトレンド入りするほど話題になっているものを後から知るのではなく、リアルタイムでトレンドの話題についていきたいという思いから番組を視聴しているものがあるということが分かった。特に毎週トレンドに挙がるような人気の番組である場合は、世間的に話題になっている内容をリアルタイムで共有しておきたいという気持ちが働くという考えが見られた。Dさんは以上のようにX (Twitter) のトレンドから来る世間の流行についていきたいという考えからリアルタイム視聴をすることがあると分かったが、リアルタイムで番組を視聴する理由については以下のような意見も得られた。

D：生放送はなんかね、ライブとかと同じ感覚。同じ時間を共有してる感覚が好き。あとはSNSでさ、知れちゃうじゃん、結果とか。それこそなんかM-1とか… (情報を) 入れたくなくても嫌でも入ってくる時代じゃん？だから、自分でちゃんと見たいからリアルタイムにこだわってます。

貝瀬：あとは何かドラマとかアニメでネタバレするのが嫌でネタバレ防止で録画とかじゃなくてリアルタイムで見ることもあるんじゃないのかって思ったんですけど。

D：あーあるある、全然ある。

Dさんにリアルタイムで番組を視聴する理由について質問したところ、生放送の番組によるライブ感覚の良さが理由の一つとして挙げられた。DさんによるとM-1グランプリや紅白歌合戦のような収録ではなく生放送で放送している番組は出演者と同じ時間を共有している感覚で番組を視聴することができ、そのような出演者と一緒に番組を楽しむこと

ができる点からリアルタイム視聴をしていることが見られた。また、賞レースのような勝敗を決める大会形式の番組ではその大会の結果がSNSですぐに出回ってしまいネタバレを食らってしまうためにリアルタイム視聴にこだわっていた。このネタバレ防止によるリアルタイム視聴については生放送以外の番組でも存在すると挙げられており、Dさんによるとネタバレを食らいたくないドラマやアニメについてもリアルタイムで視聴する番組があると発言している。

これらのことから、リアルタイム視聴を行う割合が少なくなっている中で現在もリアルタイム視聴を行う理由を分析した結果としてX（Twitter）での感想の共有やトレンド機能による流行についていきたいといった理由の他に、生放送ならではのライブ感覚やネタバレ防止があることが分かった。自分の好きなタイミングで番組を視聴できるようになった現代においてもこれらの理由からテレビ番組をリアルタイムで視聴したいという需要があるのだろうと考えられる。

第4節 TVer を利用したテレビ番組の視聴

TVer は無料の民放公式テレビ配信サービスであり、ドラマやバラエティの見逃し配信を行っている。

本調査でテレビ番組の視聴をすることが多かった D さんや E さんも TVer の利用を行っており、TVer によるテレビ番組の視聴について以下のように発言している。

貝瀬：TVer を使ってる理由を聞いてもいいですか。

D：TVer を使ってる理由は…何だろ、平日追い切れない番組を見るためと、さっきも言ったんだけど、一週間で終わっちゃうから見よう見ようっていう意識が高まるのね？逆に。後でいいやってなんないから使ってるかな。あとはもう一回見たいとかだよ。

貝瀬：あー見た番組をとってことね？

D：そう、何かどうしてもつまらない時間ってあるじゃんテレビの、そういうときに観てるかな。

貝瀬：うんうん、なるほど。じゃあ、TVer の利用頻度はどのくらいですか。

D：え、ほぼ毎日（笑）。

貝瀬：じゃあその TVer はテレビに繋げて観てるのかスマホでそのまま観てるのかどっち？

D：テレビ。

貝瀬：ああ、テレビに繋げて観てるのね。TVer はリアルタイム配信とかあるじゃん、あれは使ってない？

D：あー、使ってない。

貝瀬：じゃ基本見逃し配信で使ってるってことね。（D：うん。）オッケーです。じゃあ次に、地上波のテレビと TVer はどっちの方が多く利用してますか。

D：同じくらいかなあ。あ、でも TVer の方が多いかなあ…TVer の方が多いかも、もしかしたら。

D さんは TVer の利用を頻繁に行っており、地上波ではなく TVer を利用する理由としてリアルタイムで見ることができない番組を視聴するための見逃し配信として使用していることが見られ、録画機能のようなタイムシフト視聴としての役割を持っていることがわかる。これは TVer の機能の一つであるリアルタイム配信を利用していないことから推測できる。TVer では見逃し配信の他に、地上波と同じ時間帯で番組をライブ配信するリアルタイム配信機能が存在するが、D さんはそれを利用しておらず、このことから TVer の利用はあくまで見逃した番組の視聴用で、リアルタイムでの視聴の場合はこれまで通り地上波を利用していることが分かる。また TVer の視聴形態に関してはスマホではなくテレビ画面に繋げて視聴していると発言しており、リアルタイムで番組を視聴する場合と同じような感

覚で TVer の利用を行っている。その点に関して地上波と TVer でどちらの利用が多いのか質問したところどちらも同じ程度、むしろ若干 TVer の利用の方が多いと回答しており、D さんの中で TVer での番組の視聴が欠かせないものになっているのではないかと推測できる。E さんも以下の発言から同様の意見が見られる。

貝瀬：TVer は利用したりしますか？

E：あーします。

貝瀬：TVer はテレビと TVer でどんな風に使い分けてたりとかって？

E：え、でも TVer は主にドラマ見るのにあの一見逃したやつとか（笑）、で使ったりします。

貝瀬：見逃し用でってことね。（E：そう。）それって見逃さないようにドラマを録画とかはできるじゃん？それはしないの？

E：しない（笑）。

貝瀬：基本的にじゃあ見逃したっていうときはもう TVer？（E：うん。）

（中略）

貝瀬：実際にテレビで見てるやつと TVer だったらどっちの方が使ってる？

E：え（笑）、どっちだろ…でも同じぐらいかもしれない。

貝瀬：ちなみに TVer はスマホで見ているのかテレビの大画面で繋げて見ているのか＝

E：＝あ、テレビで（笑）。

貝瀬：テレビで見てるんだ。（E：うん。）あんまりスマホで見ようとは思わない？

E：一応あの一アプリ入れてはおるけど、あんまり見ん。

貝瀬：あー、なるほどね。ありがとう。それはスマホの画面が小さいから？

E：うん、小さいから（笑）。

E さんも TVer の利用を行っており、TVer を利用する理由も D さんと同様にリアルタイムで見ることができず見逃してしまった番組を視聴するためであると発言していた。また視聴形態についてもスマホではなくテレビ画面に繋げて視聴しており、この点も D さんの回答と共通していた。TVer はスマホや PC、タブレットといった様々なデバイスで時間や場所にとらわれずにテレビ番組の視聴をすることができる点が魅力の一つとされているが、D さんと E さんはテレビ画面に繋げて本来の番組視聴と同じ形態で利用していることから場所にとらわれずに番組を視聴することができるという点には拘っておらず、場所ではなくテレビの大きな画面で視聴する見やすさを重視して番組視聴を行っていると推測できる。さらに E さんの回答から、D さんと同様に地上波と TVer の番組の視聴の割合は同じ程度であることが分かり、リアルタイムや録画のみの従来のテレビ番組の視聴形態からタイムシフト視聴の役割として TVer での視聴の併用といった新しい形での番組視聴が二人の中

で主流になっていることが考えられる。

TVer の見逃し機能が以上のように使用されていることは読み取れたが、その場合録画機能の必要性が疑われるのではないだろうか。この疑問について D さんは TVer と録画機能の使い分けを以下のように発言している。

D：ドラマは録画をしないから、基本 TVer で一週間で見ちゃう。で、アニメは30分だからさ、もし1話取りこぼしても取り戻せるんだよ、その…熱量を。でもドラマは、もし1話取りこぼすともう1時間もあってもういいやってなっちゃうから、必ず一週間以内で絶対見ようとしてるから、録画じゃなくてTVerにしてるの、あえて。

(中略)

D：録画にしていると後でいいやーってなるじゃん？で、何かそうしてる内に一週間経って結局2話溜まってもういいやってなっちゃうから、あえて録画しないで一週間で消えちゃうTVerでちゃんと1話1話見るようにしてる。

D さんはリアルタイムで見られないドラマは TVer で視聴している。録画も可能だが録画だといつでも見ることが可能なのでついつい後回しにしまい、ドラマが1話、2話…と溜まってしまう。しかし、ドラマは1話1時間のものが多いためドラマが溜まってしまふと見るのが面倒になってやめてしまう。

一方で TVer なら無料の見逃し配信期間が1週間であり、ドラマを溜めてしまうと1週間で消えてしまうため、その番組の配信期間が終了する前に見ようとする意識が生じるのであえて TVer を利用してドラマを視聴しているという意見が得られた。

貝瀬：録画機能を所持してますか、あとその理由は何ですか。

D：所持してる。理由は、TVer ってさ、たまに権利のやつで完全に見られるわけじゃないじゃん？（貝瀬：うんうん。）だから、完全に見たいときは録画してる。

(中略)

D：あとは最近CMが煩わしいときがあるから、CM飛ばして見たいなーって思うやつは録画してる。

見逃し配信があるため本来は TVer と録画機能は同じような役割をもっているが、TVer には地上波のバラエティ番組の権利の都合上本編の一部で放送されている映像が TVer では許可が下りず、リアルタイムで放送されたものでなければ見られない映像が存在するため、完全な状態で番組を見たい場合に録画機能を使用している。

また D さんは CM が煩わしいとすることがあり、TVer だと番組の視聴途中でリアルタイムの番組と同様に広告が流れることから、CM や広告を飛ばして本編のみを視聴した

い番組は録画機能を活用しているという。

以上のように D さんは視聴するテレビ番組のジャンルによって地上波で見るものと TVer で視聴するものと録画機能を使うものとで媒体を使い分けている。インターネットの普及によって登場した TVer と地上波のテレビ番組を併用・使い分けした行動が見られており、このことからインターネットとテレビの補完的な関係が存在しているのではないかと推測できる。

第 4 節においてタイムシフト視聴としての役割を担っている TVer の利用について分析を行ったところ、D さんや E さんは日常の番組視聴で頻繁に TVer を利用していることが分かり、どちらも見逃した番組の視聴の際に利用していることから、今回分析した二人は基本的にリアルタイムでの視聴が中心であり、その補助的な立ち位置としてタイムシフト視聴の役割を持つ TVer が使われているのではないかと考えられる。TVer とリアルタイム視聴の割合について質問した際にそれぞれ同じ程度の割合だったことから、リアルタイムでの番組視聴が前提としてある中で補完的に TVer を利用するという視聴形態が D さんや E さんの番組視聴につながっているのではないかと考えられる。

第5節 テレビ番組を視聴しない理由

ここまでの分析でSNSとテレビ番組との相互補完的な関係性、インターネットとテレビ番組とのつながりが見られ、SNSの利用からテレビ番組を視聴するようになるという流れが作られていることが分かった。では、このように気軽に番組視聴ができる環境があるにも関わらずテレビ番組を視聴しない理由は何なのか。SNSを頻繁に利用するがテレビ番組は全く視聴しないというFさんに質問したところ、以下のような回答が得られた。

F：テレビ見ない理由…ゲームにハマったからかもしれない。必然的にテレビ見なくなって、でゲーム実況見てるうちにYouTubeとかそっちの方を見るのが楽しくなった。

(貝瀬：あーなるほど。) 単純に趣味の問題。

(中略)

貝瀬：実家にいた頃と比べてテレビ全然みなくなったなーっていう実感はある？

F：ある、実家に帰っても見なくなったから、あーもういよいよだなんて思う。

貝瀬：それはもう完全にひとり暮らし始めてから？

F：完全にひとり暮らし始めてからですね。

Fさんはテレビ番組を視聴しない理由として趣味の違いを挙げている。FさんによるとPCゲームにハマったことでゲームに費やす時間やゲーム関連のYouTubeの動画の視聴がコンテンツのほとんどを占めるようになったため、テレビ番組の視聴をすることがなくなったという。Fさんは現在ひとり暮らしをしており、実家にいた頃はリビングでテレビが流れていたため視聴をすることがあったそうだが、ひとり暮らしを始めてからは自分の趣味に時間を使うことが格段に増えたためテレビ番組の視聴から離れていったと発言しており、自分の興味のあるコンテンツのみを追いかけた結果テレビを見なくなったことが分かる。この点においてFさんに自分の好きなゲームに関する番組がテレビで放送されていた場合に視聴するかどうか質問したところ「視聴するかどうか分からないけど、興味は持つかもかもしれない」と発言しており、このことから興味のあるコンテンツの違いによって番組を視聴しなくなったことが推測できる。

またSNSを利用しているにも関わらずテレビ番組に一切関心を持たない理由について以下のような回答が得られた。

貝瀬：Twitterとかインスタ見て公式SNSあるなーって思ってそこから興味もってテレビ番組見ようとはならない？

F：ならないね。興味があるものしかなんか基本、何て言うんだろ、意識に入ってこないっていうか、あーあるなーぐらいで終わっちゃうからかな。そこまでの趣向が向かない。(貝瀬：うん) だからっていうのがあるかもしれない。

FさんはSNSを利用していく中でテレビ番組の公式SNSが存在していることを認識していたが、自分が興味のあるコンテンツ（Fさんの場合、ゲーム）にしか意識が向かないために公式SNSや番組の宣伝を見つけてもそこから番組の視聴につながることはないと言っている。これは先ほどの理由と同様で、自分の関心のある物にのみ意識を向けている結果それ以外のコンテンツに興味をもたなくなっていると考えられる。第1節や第2節においてX（Twitter）のトレンド入りによる話題性による番組視聴が挙げられたが、SNSを利用しているFさんに対し世間で話題になっている番組を視聴しようと思わない理由について質問した際にも以下のように発言していた。

F：なんかトレンドっていってもあれじゃない、自分がよく見ているものが出てくると、あとカテゴリー別であるじゃないですか？そこまで見ない、自分の見ている範囲に留まっちゃう。

貝瀬：なるほど、おすすめトレンドと日本のトレンドだね。

F：そうそうそう、それ（おすすめトレンド）で留まって、なんか全国のトレンドとかはあんま見ないかな。

X（Twitter）で閲覧することができるトレンドには、第1節でも触れたように日本全体のトレンドとレコメンド機能による自分のおすすめトレンドが存在する。Fさんはトレンドを閲覧する際におすすめのトレンドしか閲覧せず日本のトレンドまでは目を通さないということが分かった。第1節や2節でDさんEさんが言及していた話題性によるテレビ番組のトレンドは主に日本のトレンドによるものであったが、Fさんはその日本のトレンド自体が自分の興味の範囲外であるため閲覧をすることがなくおすすめに出てくるトレンドのみを活用していることから、FさんがSNSを使用してもテレビ番組の視聴に繋がらないのはSNSの使用段階で関心のあるものとならないものを明確に取捨選択しているためではないかと考えられる。

以上のようにFさんはテレビ番組の視聴をしないものの、番組を視聴しない代わりにYouTubeを頻繁に視聴しておりYouTubeに関する質問の中で今回の理由と関連する意見が得られた。

F：YouTubeはいろんなジャンルがあるからそこから自分で好きなものを選べるから、これが見たいこれが見たいっていうのを。だからテレビはもういいかなっていう風になった一つの要因ではありますね。

Fさんはテレビ番組ではなく YouTube を視聴する理由としてジャンルの選択性の広さを挙げている。視聴時間が決まっておりドラマ、バラエティ、ニュースなどある程度のジャンルが定まっているテレビ番組に対し、YouTube は幅広いコンテンツの中から自分の趣味に合った動画を検索して好きなタイミングで視聴することができるため頻繁に利用しているという。Fさんの場合興味関心のあるゲーム配信やゲーム実況といったものがテレビ番組では放送されないコンテンツであり、それらを視聴できる YouTube というプラットフォームがテレビの代わりとなる主要な媒体として利用されているのではないかと考えられる。

この YouTube のジャンルの選択性の広さについて、Fさんと同様にテレビ番組の視聴時間が少ない Aさんや Bさんで同様の意見が見られた。

A：やっぱり YouTube だと自分の好きなものを好きな時間に見られると思うし、好きなもの調べたらやっぱりそれに関連するものがいっぱい出てくるから、それで（視聴時間が）増えてきたっていうのはあるかなと思います。おすすめとかで出てきちゃうとそのまま見続けちゃうかなみたいな感じはありますね。

（中略）

貝瀬：じゃあ、その YouTube とかサブスクの動画って普段どんな感じのジャンルのものを見ていますか？

A：僕自身がまあゲームをやっているんで、そのゲーム実況は結構多めに見ている感じはしますね。

B：テレビはなんていうんだろ、ラジオとかもそうだと思うんだけど一方通行のタイプのメディアだから、自分で見たい情報を選べないじゃん？（貝瀬：うん）まあチャンネルは選べるけど、だったらもうなんか最初から選べる YouTube とかの方がまあ見ておもしろいっていうか、そんな感じかな。

（中略）

貝瀬：YouTube は普段どんな感じのジャンルのやつ見ていますか？

B：YouTube は旅行の動画を見ること多いかな。なんか特に何て言うんだろう、バックパッカーとかそういう系のジャンルのやつ？そのへんかなあ。

Aさん Bさんもテレビ番組をあまり視聴せず YouTube を多く視聴していたが、彼らの共通の意見として Fさんと同様のジャンルの選択性の広さがテレビ番組にはない YouTube の利点であると挙げられている。また彼らが視聴する YouTube のジャンルもゲームの実況動画であったりバックパッカーの旅行に関する動画であったりと、いずれもテレビ番組ではあまり放送されないコンテンツに興味をもっていることが分かり、その点においても

Fさんと共通していた。YouTubeではゲーム実況やファッション動画のようなテレビ番組ではメインで放送されないジャンルを幅広く視聴することができ、自分の好きなタイミングで自分の好きなコンテンツを検索して楽しむことのできる利便さがYouTubeを頻繁に視聴している理由であることが分かる。このことから、今回調査した三人がテレビ番組を視聴しないのはテレビコンテンツが面白くないためではなく、番組で放送されるコンテンツと興味をもっているコンテンツが異なることで、それらを視聴することが可能な媒体へと移っていったことが要因として考えられる。テレビが得意なコンテンツとしてドラマであったりお笑い芸人、アーティスト、アイドルといった一定層のファンが存在する芸能人や有名人が出演するバラエティ番組であったり等が挙げられるが、それらに興味をもたないことが今回調査した三人の共通点ではないかと推測できる。

第5章 考察

第1節 SNSとテレビ番組の関係性

斉藤(2020)や情報通信白書のデータでは20代のテレビ番組の視聴時間に対してスマホの使用時間が長く、このことからスマホの使用がテレビ離れにつながっているのではないかと考えられたが、DさんやEさんはSNSから流れてくるテレビ番組の情報を利用してテレビ番組の視聴をしていたり、気に入った番組や興味を持った番組の公式SNSをフォローしていたりとスマホの使用とテレビ番組の視聴の相互関係が見られ、スマホを使用したことによってテレビ番組の視聴につながる例があることが分かった。その他にもTikTokで流れる番組の切り抜き動画を見てその元となったテレビ番組に興味をもつようになるという例も見られ、いくつかのSNSでテレビコンテンツとのつながりが存在していることが分かった。

また、平田・伊藤・舟越(2022)でスマホのながら視聴が専念利用を上回っているという点が言及されていたが、DさんEさんはながら視聴中のスマホの利用についてX(Twitter)で番組の感想を共有したり番組のトレンドが挙がっていればそれを閲覧したりと、視聴しているテレビ番組の関連でスマホを使用していることが分かった。さらにEさんについては自分の推しの出演情報をSNSから取得して、そこから番組の視聴につながっていると発言しており、推し活の一つとして好きな芸能人のSNSを利用したテレビ番組視聴や推しが投稿する番組のオフショットをSNSで閲覧するといった行動が見られた。

これらのことから、SNSの使用はテレビ番組の視聴から離れていくだけではなく、むしろSNSを活用してテレビ番組を視聴するきっかけにもなり得る関係性をもっているのではないだろうかと考えられる。これはスマホの使用の大部分を占めるSNSにおいて、テレビ番組の公式SNSやX(Twitter)のトレンドに挙がる番組に関するワード、さらには短時間の動画で流れる番組の切り抜きといったテレビ番組に関連した内容が流れてくるため、番組の視聴にたどり着きやすい工夫がなされているのではないかと推測できる。またSNSからテレビに繋がるだけでなく、そこから番組の感想をSNSで閲覧する行動が見られたことから、SNSからテレビ、テレビからSNSといった双方向的な関係性となることが分かった。この点を踏まえると、斉藤(2020)で言及されていたインターネットがテレビコンテンツへの接触の機会を広げる役割を果たしているという考察と一致する結果が得られたと言える。ただこれはあくまでSNSがテレビコンテンツへの接触を広げる一つの要因を持っていることに過ぎず、今回の調査対象者はいずれもデバイスの優先順位としてスマホを一番に利用していることから、SNSの利用によってこれからテレビ番組を視聴する若者が増加するということまでは断定できないだろう。テレビコンテンツが若者にとってより身近なデバイスとして浸透するためには本調査で見られたようなSNSとの共存が必要ではないかと私は考える。

第2節 新しいテレビ番組視聴の在り方

第4章第3節においてDさんEさんはTVerの利用を地上波での番組の視聴と同じ程度行っていることが分かった。時間の都合上リアルタイムでみることができない番組もTVerでは1週間見逃し配信がされているため、このような時間による番組視聴の制限もカバーされたTVerをタイムシフト視聴の媒体として併用することで普段の生活ではリアルタイムで見る事が出来ないテレビ番組の視聴をおこなっていた。また、TVerの利用についてどちらもテレビ画面に繋げて視聴していることがわかり、地上波の番組と同じ視聴形態をとっていた。これらのことからDさんやEさんは地上波でのリアルタイム視聴とTVerを利用したタイムシフト視聴を併用してテレビ番組の視聴を行っており、地上波のみだった従来の視聴形態にはない新しい番組の視聴の在り方が見られた。

また、TVerやサブスクの動画の普及によって自分の好きな時間に番組を視聴できるようになったにも関わらずリアルタイム視聴を行う背景にはSNSから来るネタバレの防止やX(Twitter)によるリアルタイムでの感想の共有が存在することが分かり、インターネットが普及したことで時間を有効活用できるようになった一方でインターネットがあるからこそリアルタイムでの視聴にこだわる例も見られた。先行研究では若者のリアルタイムでの番組視聴の減少が言及されていたが、SNSの平行利用による番組視聴によってあえてリアルタイムで視聴するという新しいテレビコンテンツの利用が広まっていけば、SNSの利用からリアルタイム視聴を行う人が増加していく可能性を持っているのではないかと考えられる。

インターネットが活用されることでこのような新しい視聴形態でテレビコンテンツを視聴することができることから、若者が地上波でテレビ番組を視聴する際にはSNSを平行利用するパターンとしてインターネットとテレビコンテンツが関係しているのではないかと推測できる。その一方で地上波のテレビ番組の視聴が減少している背景にはネット配信による番組視聴の需要の増加が関係しており、若者がテレビコンテンツから離れているとは断定できないのではないかと推測できる。以上の点より、決められた時間にテレビ画面でのみ視聴できなかった従来のテレビコンテンツの在り方と比べて、SNSやサブスクによるネット動画を利用したテレビコンテンツ視聴という新しい在り方によって番組視聴は多様化していることが考えられる。「テレビ離れ」という表現が使われるようになった現代、これらの新しい番組視聴がより浸透していくことで若者のテレビコンテンツの利用が今後増加していくことが大切だろう。

第3節 時間の共有とSNS

第1節や第2節の考察からテレビ番組とSNSとのつながりが見られ、リアルタイム視聴を行うDさんやEさんもSNSを平行利用していることが分かったが、これらのことからSNSとテレビ番組の関係には、時間の共有が関係しているのではないかと考えられる。たとえばX（Twitter）で番組の感想を閲覧する行為ではリアルタイム視聴をしている中で他の視聴者と同じ時間を共有している感覚を楽しむことが可能であり、実際にDさんは生放送の番組におけるリアルタイム視聴にこだわる理由として同じ時間を共有している感覚を味わえることを挙げていることから、時間の共有が番組のリアルタイム視聴につながる要因として考えられる。時間の共有を楽しめる番組のジャンルとしては、第4章の分析でも見られた、感想がSNSで流れやすいドラマや生放送の番組などが挙げられるだろう。テレビ番組とSNSを平行利用する背景にはSNSを利用して他のユーザーと同じ番組を視聴している感覚を楽しめるという点が存在するのではないだろうか。

その一方でテレビ番組をほとんど視聴しない人についても考えていきたい。第4章第5節の中で興味のあるコンテンツが異なることでテレビ番組を視聴することがほとんどないということが分かったが、時間の共有という点において彼らはテレビ番組を視聴する人と共通点を持っているのではないだろうか。FさんやAさんはYouTubeの視聴についてゲーム実況動画やゲーム配信を視聴すると発言しているが、これは動画の配信者がリアルタイムでゲームをしている様子を視聴することができ、実際に同じ時間を共有できるコンテンツであると言える。Fさんはインタビュー内でゲームの実況動画を視聴しながら同じゲームをすると発言しており、このことからYouTube視聴の中で時間の共有を楽しんでいると考えられる。以上の点から、テレビ番組を視聴する人にとっても視聴しない人にとっても、コンテンツに違いは見られたがそれぞれ「時間の共有」という共通点が存在するのではないかと私は考える。

本調査においてテレビ番組の視聴について調査した結果、SNSとのつながりやリアルタイム視聴へのこだわり、それに対するテレビ番組を視聴しない意見等が得られた。若者のSNSとテレビ番組視聴との関係性について本調査で詳しく分析してきたが、今回の考察でそれらの共通点として言及した時間の共有については詳細な調査には至っておらず、若者がテレビ番組を視聴する中での時間の共有への考え方についてはさらなる調査が必要だろう。SNSと共存したテレビ番組視聴がテレビコンテンツから離れつつある若者にとってより身近な存在となることを期待したい。

参考文献

- ・内堀諒太, 2022, 「テレビと動画の利用状況の変化, その背景にある人々の意識とは」内堀諒太・渡辺洋子『放送研究と調査』72(8): 2-35
- ・斉藤孝信, 2020, 「メディア多様化時代の 20 代とテレビ」『放送研究と調査』70(2): 2-15
- ・志岐裕子, 2018, 「若者にとって、テレビとは何か? : 大学生へのインタビュー調査から」『慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要』68: 47-61
- ・平田明裕, 2022, 「スマートフォンやテレビから見るメディア利用行動の今」平田明裕・伊藤文・舟越雅『放送研究と調査』72(7): 88-111
- ・総務省令和 3 年度版情報通信白書, 2023, 「主なメディアの利用時間と行為者率」
(<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r03/html/nd242510.html>
2023/02/14 取得)